アンケート調査による子ども連れでの観光バリアの現状把握

長崎大学大学院　学生会員　○大平 達朗
長崎大学大学院　正会員　　後藤 惠之輔

1.はじめに

観光施設には様々な人々が訪れ、その一つとして小さな子ども連れでの観光者が挙げられる。小さな子ども連れでの観光は、一人での観光では感じないようなことでも、不便だと感じる要素を多く持っている。近年、多くの観光施設で、多目的トイレの設置やスロープの設置等の、ハード面のバリアフリー化は進んでいるが、長崎市においてはバリアフリー化が遅れているのが現状である。さらに、子ども連れでの観光に必要な情報は、十分に発信されておらず、ソフト面のバリアフリー化も遅れている。このようなバリアフリー化の遅れは観光客の減少につながる重要な問題である。そのため、観光地のバリアの状況を認識すると共に改善を行っていく必要がある。

本研究では、アンケートを用いることによって、子ども連れでの観光におけるバリアを把握し、これからの観光のあり方について考察することを目的とする。

2.調査概要

本調査では、子ども連れで観光する際の様々なバリアを探り、今後の課題を考えるため、現在、長崎市の保育園で 0～2 歳までの子どもを預けている保護者を対象にアンケート調査を行った。調査項目は、子ども連れでの観光に対する意識や様々な箇所でのバリア、バリアフリーマップの必要性、観光情報の発信等についてである。

3.アンケート調査の分析結果と考察

3.1 観光に対する意識

図-1 は、「子ども連れで観光をしたことがありますか」という質問に対して、「ある」と回答した保護者のアンケート結果である。子ども連れでの観光において不便だと感じることを質問したところ、「体力的につらい」や「お金がかかる」といった個人的な要因を除くと、「観光地がバリアフリー化されているのか分からない」、「観光施設の詳細な情報が手に入らない」、「観光地までの移動方法がよく分からない」といった情報不足に対する不満が約57%を占めた。現在、観光の情報は、パンフレットや情報雑誌、特にインターネットによる普及が著しいが、この中には子ども連れで観光をする際の保護者にとって、必要な情報が不足しているということが考えられる。したがって、快適に観光をする機会を更に増加させるためにも、必要な観光情報を充実させ、容易に情報を得ることの出来るようにすることが必要である。

また、観光地の詳細な情報や交通情報の不足という不便さを感じている保護者のほとんどが、不便さが解消されることにより、もっと子ども連れで観光をしたいと回答している。このことから、情報の充実と発信の工夫により、観光需要が増加すると考えられる。

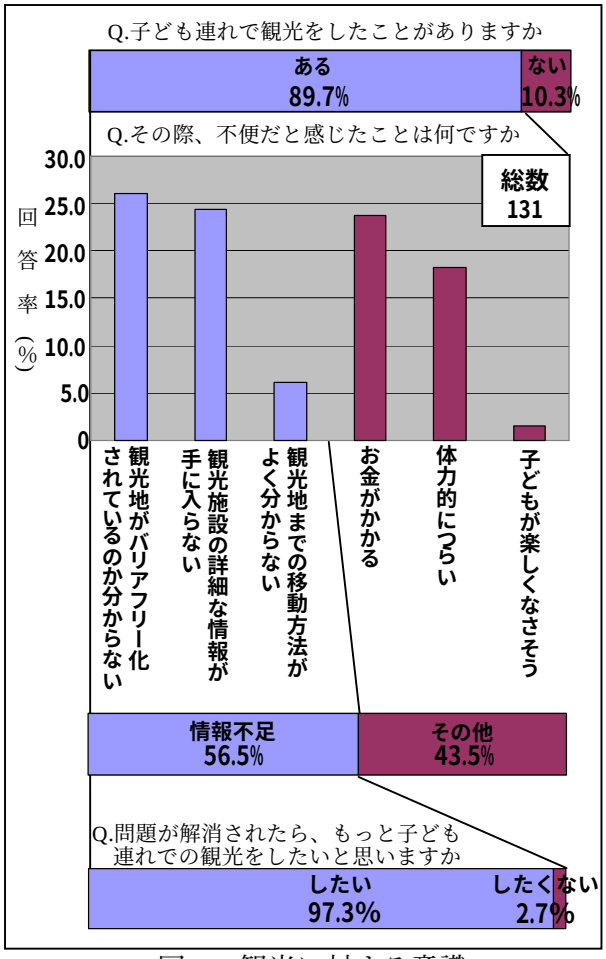

図-1　観光に対する意識

3.2 子ども連れでの観光におけるバリア

子ども連れで観光をする際には、そうでない時と比べて多くのバリアが存在すると考えられる。道路や交通機関、観光施設、宿泊施設で不便な点を質問したところ、「トイレが整備されていない」や「歩道が狭い」、「段差が多い」、「休憩場所がない/少ない」、「子ども連れ優先の座席がない」、「駐車場が整備されてない」、「子どもと一緒の食事に配慮された場がない」、「授乳室がない」等が多く回答された。このことから、観光地において物理的バリアや設備整備の問題が多数存在することが確認された。また、特に長崎市には、歴史的文化遺産を対象とした観光施設が多いことから、多くの物理的バリアが存在すると考えられる。

3.3 バリアフリーマップ

バリアフリーマップは、車イス使用者や身障者、子ども連れの人々等が外出する際に、安心して様々な活動に参加出来るように、様々な施設のバリアフリー情報を紹介するものである。バリアフリーマップの必要性について質問したところ、図-2 に示すように、必要だという保護者が 83%を占めた。このことからも、既存の観光情報だけでは情報が不足していることが考えられる。また、バリアフリーマップの利用に関しては、必要だと考えていながらも、実際に利用したことがあるという保護者はほとんどいない。これらのことから、観光情報の充実と容易な情報提供方法が必要だと言える。

また、バリアフリーマップに必要だと考えられる情報として、「公衆トイレの整備状況」や「休憩場所の整備状況」、「飲食店の詳細な情報」、「観光施設の詳細な情報」等の回答が多くを占めた。これは、子ども連れでの観光におけるバリアを情報によりカバーしようとしていることが考えられる。

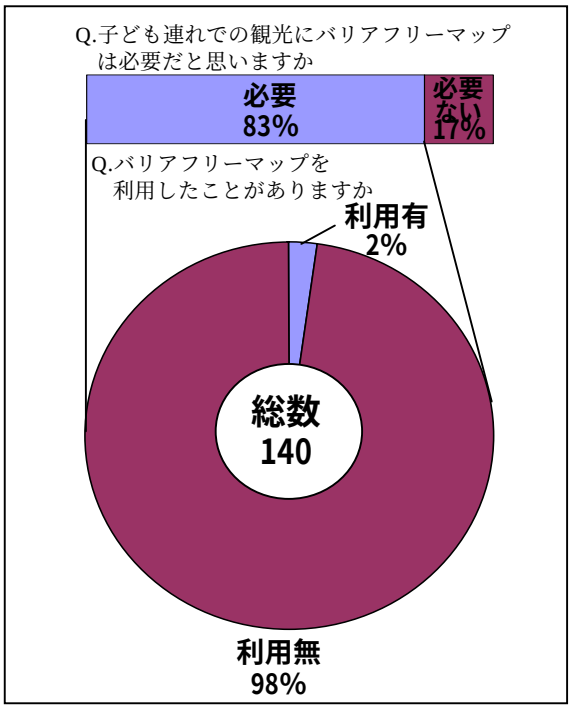

図-2　バリアフリーマップの利用性

3.4 観光情報の発信

バリアフリーマップや子ども連れでの観光における必要な情報がたとえあったとしても、それを入手することが出来なければ全く意味のないものとなってしまう。そこで近年、利用者の急増している携帯電話を用いた情報を提案したところ、図-3 に示すように利用してみたいという保護者が 84%を占めた。このことから、事前にインターネット等で調べるということだけでなく、観光地に着いた後でも容易に情報を得ることの出来る提供方法が求められていることが考えられる。

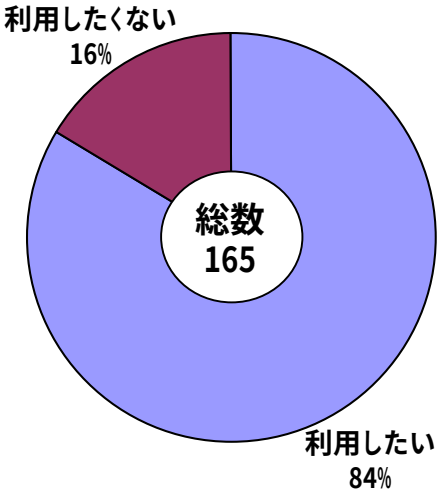

図-3　携帯電話での情報発信

4.おわりに

観光地におけるハード面･ソフト面のバリアフリー化は観光客の増減に関わる非常に重要なものである。しかしながら、小さな子ども連れでの観光においては、施設整備の問題や物理的バリアの存在、観光に必要な情報が不足しているという多くの問題が認識された。このような問題を解消するためには、施設の整備と共にバリアフリーマップの作成が必要であり、さらに、必要な情報を容易に得ることが出来るような情報提供方法が必要不可欠である。このような観光地のハード面･ソフト面の総合的なバリアフリー化を行うことにより、全ての人々が快適だと感じる観光地を創造しなければならない。